



成長

教会標語

日々新たにされる私たち

(Ⅱコリント5: 17)

編集 < 総務 >
 発行人 西村 敬憲
 発行所 岡山市東区
 西大寺中野 543-2
 日本同盟基督教団
 西大寺キリスト教会
 電話(086) 943 - 7552

この「ブラックサンダー」が発売されて三〇年になる今年の夏、九州限定のパッケージ「アリガトサンダー」が福岡の天神地下街で配布されました。さらにその日

どこの店に行っても目に付くチョコレートは、明治かロツテになるでしょう。国内シェアを圧倒するこの二つは会社も大きいです。明治だと売上高で九〇〇〇億円、ロツテは二〇〇〇億円にもなります。ところが、

どういふ調べ方かわかりませんが、「チョコレート市場売上個数」の一位は、有楽製菓という年間売上高が一五四億円の会社が出している「ブラックサンダー」です。それなら知っているという人は多いと思います。

大手の定番、ガーナとかコアラ、たけのこ、きのこなどに負けないくらい人気だそうです。

ところが、九州の営業担当者、お客様にしている業者が熱望していると専務に直談判を繰り返して、やっと残っている袋の分だけ

には、九州の七つの地方紙にフルカラーの感謝広告が出ました。「九州のみなさんあのとキ助けていたくださいブラックサンダーです。」

というコピーの下にデコボコのあのお菓子が大きく写っている全面広告です。

有楽製菓は、東京の小平市にあるかつては駄菓子メーカーでしたが、これまでの「チョコナッツスリー」に食べ応えのある食感をもった新しい駄菓子として「ブラックサンダー」を誕生させました。ところが、三〇材料にこだわったことで三〇円という高価な駄菓子になってしまい売れずに、わずか一年で生産終了に追い込まれました。

というところで製造を再開しました。それから、いろいろなところで広がり、内村航平さんが北京オリンピックにまで持って行くほどのサンダー好きを公言して、ついに不動の人気を得ていました。昨年末までに累計一七億本が売れています。

今があるのも、あの九州の人たちの熱意のおかげだといふわけです。さらにもう一つのプロジェクトもあって、「ブラックサンダー」恩人探し企画。七月いっぱい情報を募集しているとのこと、発表も楽しみです。

実はこの会社は、六年前からガーナなどで原料のカカオの収穫から出荷までに児童労働が深く関わっていることを知り、日本ではまだ関心の低かったこの問題への取り組みを始めました。

さまざま課題を乗り越えて、現在は児童労働撤廃の取り組みをしている企業による「スマイルカカオ」を一〇〇％使用するようになっていきます。このような経営の姿勢はあの「感謝」を届けようとする思いにもつ

ながっているのでしょうか。さて、イエスがある村で一〇人の重たい病氣の人に迎えられました(ルカの福音書一七章十一〜一九節)。

ツアラアトと呼ばれるこの病氣にかかると伝染を恐れられ、治ることはないと言われて区切られた場所でした。生活が許されていませんでした。彼らはイエスに遠くから「あわれんでください」と訴えると、イエスはすぐにその病を調べる祭司のところへ行くように言われま

した。彼らがその言葉通りに出ていくと、途中で完全にいやされたのです。すると一人だけが一目散に戻ってきてイエスの足元にひれ伏して感謝を表しました。イエスは彼を喜びながら、他の9人が引き返してこなかったことを嘆きました。

感謝とは、相手への敬意や信頼から生まれるものです。そしてそれはそこからその人の歩みに広がり豊かさを加えていくことになりません。この病氣が治った人はイエスへの深い信頼をもって、この後の人生の課題を乗り越えていくこと



主任牧師 西村 敬憲

「あのチョコレート」

※ 次ページへ

洗礼の証し



ユンソヨン

さあ、主に立ち帰ろう。主は私たちを引き裂いたが、また癒し、私たちを打ったが、包んでくださるからだ。

(ホセア六・一)

息子の育児で不安に包まれていた時、知り合いの誘いで初めて韓国人が中心としてコイノニワ活動に参加しました。

みんなで讃美歌を歌い祈り聖書を読みました。またそれぞれの話をしながら食事をしました。私はその雰囲気にとて癒されホッとしました。

教会、クリスチャン、イエス様、聖書、讃美歌、礼拝などの言葉は、子どもの時から何となく聞いたことがあって、息子が園生活の中で「礼拝をしたよ」ということに違和感なく受け入れることができました。なぜなら、私は韓国人で、韓国では国民の約三割がクリスチャンで教会も多く、夜

になると光る十字架もよく目にするからです。友達の話で何度か教会に行ったことがありましたが、まったく興味がなく、むしろ息苦しかったです。もちろん信じることもできませんでした。

私は大学で日本語を専攻していたので、いつか日本で働きたいと思い、試験に通って東日本大震災があった年に岡山で仕事を始めました。私は外国人だから、日本人の倍以上頑張らないと！また無視されたくない！差別されたくない！という気持ちがとても強かったです。

そう日本で暮らしていた中、息子が年中の頃サムエル幼稚園に転園し、イースター礼拝をきっかけに家族で教会に足を踏み入れるようになりました。その後、

聖書にはどんなことが書いてあるだろう、イエス様のことをもっと知りたいと思いい、赤江先生の聖書を学ぶ会やまり子先生との勉強を重ね神様へと飛び込みたいと決めました。特に赤江先生との勉強会では、神様を信じると人生が豊かになり天国という市民権がもらえる、そこには国籍や人種などに関係ない、ただ信じるだけでいいという言葉がずっと心に残りました。「私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。」(ピリピ三・二〇)

まさにこれがシンプルライフだ！と思えました。そして私は日本での韓国人とか、外国人ママとかではなく、ただイエス様を信じる人と思うと、今まで自分の力で背負ってきた荷物が一瞬で消え肩の力が軽くなったのです。つい人と比べて落ち込んだり、小さいことで、よくよくしてしまおう私でしたが、「わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はない。

この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。」(使徒一八・一〇)

この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。」(使徒一八・一〇)のみことばに頼ってシンプルに神様を信じて生きていけば、もっと人生を豊かに過ごせると思えました。そして、今まで神様を否定して生きてきた私の罪のために十字架にかけられて亡くなったイエス様が、三日目によみがえってくださいました。感謝します。

ところが、去年の年末、お母さんの心の病気が悪化して入院することがありました。麻利子先生をはじめ(お母さんの名前までメモしてまで祈ってくださいました。)、クリスチャンの友だちの祈りに支えられ入院してすぐに病気が落ち着きました。入院にたどり着くまで家族みんながとても苦しい思いをしました。入院後そこで出会った先生、看護師さん、またお母さんの状態に合う薬など全てが良い方向に導かれた気がするのは、お母さんの入院がきつと神様を信じるためになくはないかと思えます。

私たちが感謝から次の一歩が見えて来るのではないのでしょうか。

※

になったのでしよう。感謝をしない人というのは、自分の力を過信しているために世界が小さくなっている人だと思えます。礼儀のない態度や暴言なども自分だけしか見えていないことを表しています。感謝をすることは、その思いやりから世界を変えていく勇気を生むことになりません。イエスは彼にこう言われました。「立ち上がって行きなさい」。私たちは感謝から次の一歩が見えて来るのではないのでしょうか。

そしてギクシャクした私とお母さんとの関係が改善されました。こういうお母さんの事以外にも色々な苦しい事がありました。が、今の私がいるのは、クリスチャンの友だちのお母さんや、岡山で出会ったクリスチャン仲間の祈りの力です。これからも神様のみことばを読み、祈り、家族や友だちにも主とともに豊かな人生を送るように神様のことを伝えたいです。(24・5・19受洗 ルツ)

救いの証し



井上芳樹

教会に通うようになった母につれられて教会学校の幼稚科に参加したことが一番古い記憶です。教会学校では、ザアカイや放蕩息子などの聖書の話を題材にした劇やティーンズバイブルキャンプがとても楽しくて、心に残っています。

高校を卒業してからは、ずっと第二礼拝に出席してきました。自分に罪があることやイエス様が十字架でその罪を背負って、身代わりになってくださったことやその後、復活して、罪の赦しと、永遠の命をくださったことを信じています。これは、母が「イエス・キリストの受難、十字架と復活」というCDを聞かせてくれたので何回も聞いているうちに自然と信じられるようになりました。礼拝も大切な習慣になりました。洗礼のことも考え

た事もありましたが、タイミングがつかめず、ズルズルと過ぎていきました。また、礼拝の他にビーバー隊に入隊してからスカウト活動を続けてきました。高校を卒業後、星山団員長から声をかけられて、カブ隊のリーダーになりました。それから一二年間続けています。

昨年のスカウトクリスマスの際に、西村先生から洗礼のことを聞かれました。その時、私は「これが神様の導きか」と思い、洗礼に向けて学ぶことを、決心しました。今年の一月から聖書の物語を学び、そして今まで聞いてきたことが整理できました。そして洗礼を受けて、イエス様のために、生きていきたいと思えました。これからは、カブ隊のリーダーの他にも、いろいろな奉仕をやらせてもら

たいと思います。

最後に好きなみことばをあげます。「神は仰せられた。わたしが、あなたとともにいる。これが、あなたのためのしるしである。このわたしがあなたを遣わすのだ。あなたがこの民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で神に仕えなければならぬ。」(出エジプト記三・一二)

「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように 神よ 私のたましいはあなたを慕いあえます。」(詩篇四二・一)

の二つです。これからよろしくお願いいたします。(24・5・19受洗 青年会)

幼稚科デイキャンプ



2024年7月20日(土曜日)

「ボーイスカウトファミリ ィキャンプの証し」

金 田 百 音

三 宅 章 之

将 棋 同 好 会

私は二泊三日のファミリィキャンプに参加してきました。高校生になって初めてのキャンプでした。このキャンプで一番心に残っているのは、キャンプファイヤーです。ベンチャーは司会みたいな役をしていて、点火劇や、各隊の出し物の準備ができるまでのみんなとできるダンスをしていました。各隊の出し物の間に、「次はこのダンスね」と打ち合わせをしていたので、各隊の出し物が全然見られず悲しかったです。また、初めての司会だったので、緊張していたからか、劇のセリフを忘れそうになったり、ダンスの歌詞を間違えたりしました。でも、最初のダンスを褒められてすごくうれしかったです。

失敗もいっぱいでしたが、キャンプが終わった後、保護者の方々に「がんばっ



ていたね」「司会ありがとう」と、あたたかい言葉をもらってとてもうれしかったです。来年は、失敗をあまりしないように頑張ろうと思います。ここまで読んでくださりありがとうございます。

ていたね」「司会ありがとう」と、あたたかい言葉をもらってとてもうれしかったです。来年は、失敗をあまりしないように頑張ろうと思います。ここまで読んでくださりありがとうございます。

将棋同好会を教会で始めて、もう何年になるでしょうか。時には、子どもがいなくなつて、数年休んだこともありますが、初めて教えた小学生は、もう社会人になっていてと思います。私と将棋との出会いは、小学生の時にありますが、多分日曜日の昼間に今もやっているNHK将棋トーナメントの番組を親が見ていて、面白そうだと思い、ルールを覚えたのがきっかけだと思います。あと、小学校の授業の時間に将棋クラブといるのがあって、それに入り、同級生に好敵手がいって、強くなりたいと思ったのが、本気で将棋を学ぼうとしたきっかけです。私の将棋は本当に独学で、自分で本を買って読んで、あと大人になって将棋雑誌を買って、いろんな手筋を覚えま

した。好きこそ、ものの上手なれです。将棋道場に通った経験もなく、今、将棋同好会に来ている子ども達のように、教えてくれる大人がいるというのは、うらやましい環境です。だから、来ている子には、ちゃんといろいろ勉強して、平手（ハンデ無し）で私とやっても勝てるくらい、強くなつてもらいたいと思っています。

今、将棋同好会は、毎月一回、月末くらいの土曜日午後二時半からやっています。子どものお母さんに将棋同好会のLINEグループに入ってもらって、次回

開催日の案内をしています。もちろん無料です。将棋は、始める時は、「お願いします。」と言ひ、負けた時は自分で「負けました。」というゲームです。相手を尊重する礼節と、負けた時は、自分の負けを認めることを学ぶことができる良いゲームだと思います。自分の負けを認め、悔しさとともに、もっと強くなりたいと頑張る心を鍛えるのです。このことは、信仰の鍛錬にも繋がります。

ただ、本当に面白いゲームなので、将棋を楽しんで、強くなつてほしいと思っています。

